

No 37  
31 Dec. 2012

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成24年12月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内 TEL03-5604-8611 FAX03-5604-8613

## 躍進するパプアニューギニア

駐パプアニューギニア日本大使 橋(岩崎) 廣治

当地の在勤も2年を超え、「この国は如何ですか」と外国人を含め多くの人々から質問をされます。多分政治とか経済について聞きたいのだらうと思うのですが、私は、あえてマウント・ハーゲンで野生の極楽鳥を見たこと、そしてこの国の土地の豊かさに感動しています、と答えています。

極楽鳥は感動ものでした。「素晴らしい、この世のものとは思えない」と思いましたし、この感動を日本の多くの方と共有できたらと思ったものです。いつか必ずそういう日が来ると信じています。美しいものを見ることは、それだけで私たちの精神的肉体的免疫力を高めるそうです。この国の土地の豊かさは、多くの鉱物資源を有している点もさることながら、農業にも非常に適しているという点です。公邸の裏庭で化学肥料を一切使わず家庭菜園のまねごとをしていますが、土地の豊かさは驚きです。いずれ日本も鉱物資源だけでなく当国から農産物を輸入する日が来るのではないかと、と思っています。

さて、当国の経済状況ですが、2013年度予算が11月に



ポリエ財務大臣より公表されました。過去最高額となる約130億キナが計上され、インフラ整備、法と秩序、教育等主要セクターに全体の約64パーセントが割り当てられる内容となっています。

PNGの予算規模は、同国の強い経済成長を背景に拡大していますが、ご承知のとおり、各地で行われている

天然ガス開発が要因の一つとなっています。ヘラ州で開発されているPNG LNGプロジェクトから、日本へ2014年より輸出されるLNGは年間330万トンのLNGが輸出される予定です。2011年における日本のLNG輸入量を8,300万トンとして計算すると、PNGからの輸入は全体の約4パーセントを占め、今後は高い確率でPNGが日本におけるLNG輸入先国の上位10位以内に入ることとなります。今後も各地で進められている天然ガス開発が軌道に乗り、日本へLNGとして輸入されることとなれば、同国の重要性は更に高まるでしょう。

国内経済の発展に伴って生じているインフレ率に関しては、2010年が6.0パーセント、2011年が8.6パーセント







と高い水準を記録しました。一方、2012年上半期の平均は2.7パーセントとなり、当初予測の7.6パーセントを大幅に下回っています。しかし、PNGで生活をしていると、もう少し高いインフレ率が生じているように感じます。この大きな理由として、統計局の集計方式が1970年代から全く代わっていないことがあげられます。統計の対象には、住居費やテレビ及び携帯電話等が含まれておらず、現状を正確に反映しているとは言えません。現在、統計局は集計方式の見直しを行っていますが、仮にこれらが統計対象として含まれていた場合、インフレ率は2倍以上を記録していたであろう、とされています。

PNGの経済成長は今後も継続する見込みです。2011年の経済成長率は、当初の予測8.9パーセントを上回る11.1パーセントを記録しました。政府は、PNGLNGプロジェクトへの投資が終息に向かう2012年は9.2パーセント、2013年は4.0パーセントと予測していますが、LNG輸出が本格化する2014年以降は経済成長に拍車がかかり、2015年の成長率を20パーセントと予測しています。

PNGは、1975年独立の若い国です。統計局の資料では、総人口約700万のうち、コンクリート住居に住んでいる割合は0.5パーセント、電線網が整備されている割合は約15パーセント、水道が整備されている割合は12パーセント程に過ぎません。携帯電話こそ国民の約半数が所有していますが、車や洗濯機は約4パーセント、テレビが約15%です。

先進国では一日に平均一人約1本の缶ジュースが消費されていますが、パプアニューギニアの平均的な国民が1年間に購入する缶ジュースの本数は、一人約10本程度とされています。今後、天然資源の恩恵が国民に分配されて国民の生活レベルが向上されるにつれ、国内市場は更なる拡大の可能性を産むこととなるでしょう。

最後に、日本にとって同国は約13万の英霊が眠る特別の場所でもあります。英霊の方々の遺骨収集・慰霊を引き続き行うことは勿論ですが、この特別な国パプアニューギニアとの一層の友好促進に努めるのは我々の義務であり、LNGのみならず広範囲の分野で両国の協力関係を強化すべきと考えています。



## 2012年と協会の歴史を振り返って

### 協会事務局より

当協会は、2002年12月、故原田昇左右先生のお声掛けによる自民党本部リバティール2号室でのキックオフミーティングで、任意団体としての産声を上げ、初代会長には谷口誠氏(元駐PNG日本大使、元国連大使、現協会名誉顧問、理事)が全会一致で選出されました。

その後、マイケル・マウエ 元駐日PNG大使の強いご要望もあり、2004年2月24日にNPO法人として登記を完了しました。2007年6月より、山下勝男氏(元駐PNG日本大使)が会長

職を引き継がれ現在に至っております。

発足当時は原田先生の事務所に事務局を置き、その後ニューギニア航空が事務局を引き継ぎましたが、2012年3月でニューギニア航空日本支社が閉鎖となったことから、現在は協会法人会員で理事であるコスモメディア株式会社にて事務作業を行っております。

発足当時は法人会員も数社、個人会員30名程度でしたが、現在は法人会員数30社、個人会員は110人にまで発展し、少なからず両国の友好発展に寄与できているのではないかと

と思っております。最近は、我々と同様の協会の発足を計画されている他国の関係者の方々から、登記や運営についてのご相談を受けたりもしております。発足当時より協会では会員の皆さまにお集まりいただけるイベントとして、PNG独立記念日のパーティーをPNG大使館と共催、独立記念日の記念ゴルフコンペ開催にも協力を致してきました。

またPNGから大切なお客様が来日された時には、日本側の民間の代表として歓迎会を開催するなど、民間の窓口としての役割を果たして参りました。

2006年5月にマイケル・ソマレ首相が第4回日本・太平洋諸島フォーラムへの参加の為に来日された際には、東京国際大学にてソマレ首相による基調講演の企画を行い、大学より名誉学位の称号が贈呈されました。

2012年からは、Kivung Bona Toktok on PNGという、会員の皆様にPNGへの理解を深めていただく企画を開始し、今後も年に数回実施する予定です。第三回となる次回は2013年の早い時期に企画させていただきますので、ご期待ください。

2013年ですが、3月には日本政府の招聘によりピーター・オニール首相が来日される予定で、歓迎会の準備にかけましました。また、長岡の花火大会にドウサバ大使とご一緒する企画も計画中です。

今後も協会では、皆様のご要望などをお聞きしながら、両国親善に努めてまいります。いつものお願いで恐縮ですが、会員の増強に関しまして、引き続き皆様にご協力いただきますようお願いいたします。ドウサバ大使に推薦状にお書き頂いているように、会員数が増えることで協会の活動も益々活発化させることができるようになります。何卒よろしく願いいたします。尚、現在の法人会員様は次の通りです。

協会のホームページ(HP) <http://www.jpng.or.jp>から各社様へリンクを張っております。法人会員様の中にはPNGの特産品などを販売されている企業もございますので、皆様には是非一度、各社のHPを覗いていただければ、と思います。また協会HPでは、過去の全ての機関誌「ごらくちょう」をご覧いただけます。法人会員様紹介も各号で行っておりますので、ご一読ください。



### 日本・パプアニューギニア協会 法人会員様 一覧 法人名/ホームページ

晃和木材 株式会社	株式会社 かもめ	JX日鉱日石開発 株式会社
株式会社 ピーエムコーポレーション	<a href="http://www.kamometour.co.jp/">http://www.kamometour.co.jp/</a>	<a href="http://www.nex.jx-group.co.jp/">http://www.nex.jx-group.co.jp/</a>
協和海運 株式会社	阿含宗	株式会社 マルチウェーブ
<a href="http://www.kyowa-line.co.jp/">http://www.kyowa-line.co.jp/</a>	<a href="http://www.agon.org/">http://www.agon.org/</a>	<a href="http://www.mwave.co.jp/">http://www.mwave.co.jp/</a>
南洋開発 株式会社	株式会社 町田いずみ浄苑	大豊建設 株式会社
<a href="http://nanyo-kaihatsu.com/">http://nanyo-kaihatsu.com/</a>	<a href="http://machidaizumi.ohnoya.co.jp/index.shtml">http://machidaizumi.ohnoya.co.jp/index.shtml</a>	<a href="http://www.daiho.co.jp/index.html">http://www.daiho.co.jp/index.html</a>
三高物産 株式会社	株式会社 鈴木瓦店	丸紅株式会社 ガス事業開発部
<a href="http://www.sankobussan.com/">http://www.sankobussan.com/</a>	<a href="http://www.suzuki-kawaraten.net/">http://www.suzuki-kawaraten.net/</a>	<a href="http://www.marubeni.co.jp/">http://www.marubeni.co.jp/</a>
コスモ石油 株式会社	特定非営利活動法人 山本元帥景仰会	千代田化工建設 株式会社
<a href="http://www.cosmo-oil.co.jp/">http://www.cosmo-oil.co.jp/</a>	<a href="http://yamamoto-isoroku.com/">http://yamamoto-isoroku.com/</a>	<a href="http://www.chiyoda-corp.com/">http://www.chiyoda-corp.com/</a>
コスモメディア 株式会社	株式会社 郡産業	京和商事 株式会社
<a href="http://jah.jp/">http://jah.jp/</a>	山九 株式会社	<a href="http://www.kyowa-shoji.co.jp/">http://www.kyowa-shoji.co.jp/</a>
株式会社 パプアニューギニア海産	<a href="http://www.sankyu.co.jp/index.html">http://www.sankyu.co.jp/index.html</a>	株式会社 商船三井
<a href="http://pngebi.greenwebs.net/">http://pngebi.greenwebs.net/</a>	山水 海運株式会社	<a href="http://www.mol.co.jp/">http://www.mol.co.jp/</a>
株式会社 日本墓苑開発センター	<a href="http://www.yamamizu.co.jp/index_jp.jsp">http://www.yamamizu.co.jp/index_jp.jsp</a>	
エルエヌジージャパン 株式会社	高須クリニック	
<a href="http://www.lngjapan.com/">http://www.lngjapan.com/</a>	<a href="http://www.takasu.co.jp/">http://www.takasu.co.jp/</a>	
住友林業 株式会社	堀内貿易 株式会社	
<a href="http://sfc.jp/">http://sfc.jp/</a>	<a href="http://www.horimicals.com/index.html">http://www.horimicals.com/index.html</a>	
日本マリン 株式会社	小川総合法律事務所	
<a href="http://www.nipponmarine.co.jp/">http://www.nipponmarine.co.jp/</a>	<a href="http://www.jseinc.org/lawfirm/ogawasogo/index.html">http://www.jseinc.org/lawfirm/ogawasogo/index.html</a>	



日本・パプアニューギニア協会  
法人会員紹介 第30回

「みなさん、こんにちは」

株式会社  
マルチウェーブです。

www.pngnow.com/  
www.multiwavepng.com.pg  
TEL 03-6433-2811  
FAX 03-5462-0231

約3年程前に初めてパプアニューギニアの地を訪れる機会がありました。その際、当時のマイケル・ソマレ首相にお会いし、「日本の技術の輸出とパプアニューギニアからのエネルギーの輸入」と言うお話をさせて頂きました。

折しも、昨年3月11日の震災が起これ我々日本人はエネルギー問題に直面する事となりました。我々の理念である、「技術の輸出とエネルギーの輸入」の意味するところは、先進的な技術力を提供・教育し、その対価としてエネルギー(資源、労働力、産業の成果として生



産される食物・製品等)を得る事で共存共栄して行く事です。主な業務としては、関連会社であるByakuho Ltd.を通して建設等のインフラ整備に係るコンサルティング及びマネージメントを、また昨年現地に設立したMultiWavePNG Ltd.ではITに特化し、コンピューターソフトウェアの開発・提供から、インターネット・パソコン(タブレット)・スマートフォンの販売・設定・教育等、を日本水準の品質で提供していきます。インフラ整備関連での具体的な取り組みとして、Byakuho Ltd.が現地企業Clean Green Energy Ltd.とのコンサル・マネージメント契約によってプロジェクトを遂行し、The Marape Unity Bridge が2012年4月24日に完成しました。

建設地は、現在LNGプロジェクトが進行中のヘラ州タリにあるタガリ川流域のタリ・ポリとコロバ・コピアゴを結ぶ場所です。このプロジェクトはヘラ州

政府の準備機関であったHTA(Hela Transactional Authority)による直接投資案件であった事とローカル企業であるClean Green Energy Ltd. が受注・完成させた事で注目を浴びました。完成式典にはピーター・オニール現首相も参列し、費用対効果の高さ、建設期間の短さで評価を頂きました。

今後も、ITサービスとそれに関連する物流の充実と、引き続きインフラ整備に係る業務を行っていきます。

また、ポータルサイトPNGNOWでは日々、現地ニュースを日本向けに発信していきます。



## 編集後記

中村理事の強力なご尽力により、現在の当協会の法人会員数は30社になりました。

PNGの発展とともに、いろいろな企業様が進出されていることが良くわかります。そして、法人会員の皆様が当協会の意義にご賛同いただいていることに、深く感謝いたしております。

本年は、事務所の引っ越しなどで、「ごらくちょう」の発行が遅れましたこと、重ねてお詫び申し上げます。

12月25日現在の会員数は、法人会員30/個人会員110です。

## 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。  
会員数 2012年12月末 \*法人会員/30 \*個人会員/110

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法/郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。  
年会費/個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円  
会費受付/郵便振替口座をご利用ください。

口座記号/番号 00140-2-277582  
加入者名/トクヒ)ニホン パプアニューギニアキョウカイ  
問い合わせ先/日本・パプアニューギニア協会 事務局  
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-6-10 大橋ビル1階 コスモメディア(株)内  
電話 03-5604-8611 FAX 03-5604-8613 E-mail: info@jpng.or.jp  
URL <http://www.jpng.or.jp>